

夢占

の徒所々に多し、其劔相をいふは、後天の八卦を鑑より順にわり付け、八卦の當る所、疵にても地あれにてもあれば、凶といひ、無疵なれば吉とす、譬ば、坎の所に疵あれば住所の障り、震の所に疵有ば宗領に祟る、兎は妻の不縁といふ也、扱此輩、もとより刀の目利するにもあらず、右のごときもの故、まなひ疵などは夢にもまらず、只焼出しよく、地あれもなければ、大鞆有て、一向益にた、ぬ刀にても、右の吉劔の合紋さへ宜しければ、譽立て高直に賣付る惡徒有、尤道具屋と相組て賣付るとなん、

〔閑窓自語〕^四兵部卿邦頼親王相劔事

兵部卿邦頼親王^{見宮伏}は、ことに劔をこのまれ、よく利鈍および銘の眞偽をわかち、無名の劔のうちてを察せらる、又いまの世にはやる劔相をもならひ得てのべらるとぞ、廣橋前大納言伊光卿

も、ちか比兩方ともこのみて見らる、よし、吉凶なども、あたるよしき、侍りし、

〔二中歴一三〕^能夢解

世兒^{ヨチヨ} 世千成^{ヨチナリ} 院讚 都々 横頭

〔倭訓栞^{前編}三五〕^由ゆめあはせ。日本紀に相夢をよめり、漢に原夢又圓夢と見えたり、山谷詩に

茶夢小僧圓と是也、眞名伊勢物語に合すと書り、拾遺集に、夢よりぞ戀しき人を見そめつる今はあはする人もあらなん、

〔嬉遊笑覽^{八術}〕^方夢合、周禮に占夢の官ありて、六夢の吉凶を占ふ、^{六夢は、一に正夢、二に靈夢、三に思}

り、王達が筆疇に、夢者非自外致也、日之所爲也、日之所爲有善惡、夜之所夢有吉凶云々、然則夢者所以驗吾善惡之進退者乎、こゝにも日本紀には、ゆめあはせを相夢とあり、夢解といふもの有て、吉凶を占へり、源氏^盤夢見給ひて、いとよくあはする物めして合せ給ひける、枕草子、うれしき物夢をみておそろしとむねつぶるゝに、ことにもあらずあはせなどしたる、古事談伴善男の條に、汝